

交通需要管理施策分析に基づいた交通計画に関する研究

金沢工業大学C中村 拓生*・遠藤 孝夫**・紅谷 峰樹*・奥岡 司朗*・
益田 智行*・柴山 和宏*・奈良岡 学* *非会員 **正会員

1. はじめに

交通混雑現象の原因として第一に挙げられるのは、交通の空間的および時間的な集中である。

金沢市においても業務機能の集中や環状道路の未整備、自動車利用の多さなどから、中心部での道路交通混雑が慢性化している。中心部と郊外部を直接結ぶ公共交通機関が実質的にバスのみに限られており、その利用が減少傾向にあることも交通混雑緩和とは逆の方向へ向かっている原因の一つとなっている。

こうした都市中心部における交通混雑現象に対しては、道路やその関連設備などの交通基盤の整備と、道路交通量の制御を目指した交通需要管理の両方の施策が必要となる。実際、金沢市や石川県においては、前者の例として金沢市中心部を迂回する経路を確保する環状道路の整備計画が進められており、後者の例としてパークアンドバスライド事業がまだ対象地域は限定されているものの定常的に実施されている。

本研究では、交通需要管理施策としてのパークアンドライドに着目し、金沢におけるパークアンドバスライド事業に関する分析を行う。

2. 研究方法

金沢市中心部から南西方向に約5kmの位置に設定された2つの駐車場を利用した現行のパークアンドバスライド事業についてその内容を調査する。それにより、事業概要を把握する。

一方、利用者・非利用者を含め地域住民を対象とした意識分析を実施する。

パークアンドバスライドでは、郊外部に設けられた駐車場まで自宅から自動車で移動し、駐車場近くのバス停留所からバスに乗って中心部へ移動し、勤務先近くのバス停留所で降りて最後は徒歩で移動することになる。

そこで、利用者・非利用者それぞれについて、パークアンドバスライドに対する選好意識を明確にするための調査項目を選出する必要がある。

3. まとめ

本研究によって、金沢における現行のパークアンドバスライド事業に関する利用者・非利用者の意識が把握でき、分析を通じて交通需要管理施策としての効果が推定される。

これにより、現行は一つの地域において2つの駐車場を設けて実施されているパークアンドバスライド事業であるが、将来実施地域を増やした場合の交通需要管理施策としての効果を検討するための分析の枠組みが整理される。

参考文献

- ー金沢市WWWサイト：URL <http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/>
- ー石川県WWWサイト：URL <http://www.pref.ishikawa.jp/>